

近い将来、人の仕事の大半が機械に奪われるという話は、皆さんがよく聞く話題だと思います。保健体育の宿題で新聞を読んでいたとき、私はその事に関する記事を見つけました。「2030年 人の仕事が消えていく」という題です。そこには、井上智洋さんという方の労働に関する考え方が書かれていました。「働く以外にも素晴らしいことはあるし、生きていてだけで貴いという価値観に変えていかないといけないですよ。遊んで暮らすもけっこう、くらいにゆるい社会にならないと、今でも生きづらさを感じている人は多いし、ますますそうなってしまいます。労働以外のことに意味や価値を見いだしている人の生き方も肯定していかないと、立ちゆかなくなります」将来の話や仕事の話は、よく先生方から聞いていました。だから、この記事にも同じようなことが書かれているのだろう、と思いつきにスクラップブックに貼ってしまおうとしていました。しかし、労働以外の価値という言葉を見て、興味を持ち読んでみました。読んでみると、とても新鮮な意見でとても面白かったです。「働く以外にも素晴らしいことはある。」ということは、分かっているけれど、他の道を見つけて貫くのは難しいものだと思います。「今この時代は、働いて普通の人生を歩むことが幸せのように思われているが、もっと他に幸せなことはあるのではないだろうか。」と投げかけられているように、井上さんの文から感じます。有名な大学に入って、良い会社で働くことだけが幸せとも限らないと気付かされました。今、働いた分の給料をもらえていない人や、働きたいのに働けない人がいると思います。働いていない人は、「可哀そう」だとか、「不幸だ」と思われがちです。でも、本当に不幸なののでしょうか。井上さんも、「私は、労働が人間の本質であるとはあまり思いません。」と述べています。働く喜びを感じることができていなくても、他の事に喜びを感じているのかもしれないかもしれません。もちろん金銭の点では働いていないと難しい問題はあります。合わない職場で辛い毎日を送っている人がいるのなら、その人の方が収入は良くても、幸せかは分かりません。ではそこで、AI化が進んでいくとどうなるのでしょうか。井上さんは、「高度に AI が発達したら、人間は怠けても別に問題ないでしょう。」と考えています。AI化は、私たちの職業を奪っていくものだと決めつけていましたが、ちょっとだけ見方を変えれば、私たちに自由な時間が増えるかもしれないという良い傾向なのかもしれません。生活費については、BIという全ての人々に最低限の生活費を給付する、制度を用いるという案があるそうです。仕事のほとんどを機械に任せるとするのは、今では考えられないかもしれないけれど、もしかしたら施行されるときがくるのかもしれないかもしれません。そうすればきっと、働きたい時に働いて遊びたいときに遊ぶ、自由な国に日本はなれるのだと思います。AI化に対しては賛否両論だそうです。私も、今まで人が頑張ってきた仕事が機械に奪われるのは、少し悲しいので反対でした。しかし、この井上さんの意見を見て、意見は変わりました。職業を奪われる人もいるだろうけど、今よりは平等な世の中になるのではないのでしょうか。減っていく職業に焦って勉強するのではなく、AIによる社会に目を向け、期待してみるのも面白いかもしれません。